

道博協ニュース 第136号 (2025年3月31日発行)

令和6年度北海道博物館協会ミュージアム・マネジメント研修会 実施報告

令和6(2024)年12月4日(水)・5日(木)に新さっぽろアークシティホテルおよび札幌市青少年科学館を会場として、「まちづくりに寄与するミュージアムの機能と役割」をテーマに令和6年度北海道博物館協会ミュージアム・マネジメント研修会が開催されました。1日目の基調講演・シンポジウムは46名、2日目の施設見学研修は30名、2日間で延べ76名の参加者となりました。

1日目の4日(水)は新さっぽろアークシティホテルで、道央地区博物館等連絡協議会会長の中島宏一氏ならびに共催機関の日本ミュージアム・マネジメント学会会長の小川義和氏よりそれぞれ開会のご挨拶をいただいたあと、基調講演、事例報告、シンポジウムを順に行いました。基調講演の講師は北海道大学名誉教授の木村純氏で、テーマは『「まちづくり」における博物館の役割』でした。「まちづくり」において博物館ができること、長野県における地域まるごと博物館の事例などについて解説いただきました。

事例報告では3件のご報告をいただきました。1件目は、札幌市まちづくり政策局都市計画部事業推進課長の田村尚己氏より「新さっぽろ地区(札幌市厚別区)のまちづくり」について、2件目は札幌市青少年科学館館長の西川英一氏より「リニューアルした札幌市青少年科学館の今後の展望」について、3件目は新さっぽろサンピアザ水族館館長の福田利幸氏より「新さっぽろのまちづくりと共に歩むサンピアザ水族館の取り組み」について、それぞれ豊富な画像資料とともに説明いただきました。いずれもまち歩きや、各施設の見学にワクワク感をもたらすご報告でした。

その後、休憩を挟み、中島会長をコーディネーターに、木村名誉教授、西川館長、福田館長をパネラーとしてシンポジウムが行われました。基調講演や事例報告の内容を踏まえながら、まちの発展と博物館の取り組みの変化や多様性、地方の博物館と地域住民とのつながりを大切にした博物館活動などについて、パネラー・参加者双方からさまざまな意見や、状況の報告がなされ、学びの多いシンポジウムとなりました。

シンポジウム後の情報交換会では、道内各地から集まった博物館関係者に加え、道博協賛助会員の皆様のご参加もいただき活気あふれる情報交換会となりました。



シンポジウムの様子

2日目の5日(木)は札幌市青少年科学館で、施設研修会を実施しました。科学館の石丸係長からリニューアルの概要をご説明いただいた後、科学館職員による15分間のサイエンスショー(静電気)を鑑賞しました。その後、プラネタリウムも鑑賞し、館内自由見学ののちに終了となりました。博物館が、都市部においても、地域においても、まちづくりを行う上で重要な役割を果たしていることを強く実感できる有意義な研修となりました。かつて理科教諭だった筆者としては、学校教育と地域住民に対する社会教育・生涯教育を比



施設研修会(サイエンスショー)の様子

較しながら、博物館における教育活動を考える良い機会となったことに加え、自身の博物館における教育活動に一層励んでいきたいと思えるような実りある研修となりました。今回の研修内容を

受け、道博協の皆様で団結して、地域振興のためにもより良い活動を行っていきましょう！

[北海道博物館協会 事務局次長 成田 敦史]

道央地区博物館等連絡協議会 NEWS

倶知安風土館のイベント事業について

倶知安風土館では、毎年様々なイベントを実施しています。

恒例のイベントとしては、地域の自然や史跡を散策する「観察会ふるさと探訪」、小～中学生を対象としたモノづくりをメインとしたワークショップ「寺子屋ミュージアム」、生き物を調べて記録することの大切さを知ってもらう「いきもの調査隊」といったものです。ほかにも、最近では同じ敷地内にある小川原脩記念美術館とも年2回程度、敷地内の樹木や草花を題材にした共同ワークショップを行い、連携を強めているところです。

このほか、今年度の思い出深かったのが、美瑛市宮島沼（以下「宮島沼」）に位置する宮島沼水鳥・湿地センターと共催した自然交流事業です。キーワードは「湿地」。2つの施設を拠点に、2つの町の子供たちが相手の町に泊りがけで訪れ、互いの町の成り立ちや自然について教え、学びあいました。

交流会はそれぞれ、倶知安町で7月14～15日、宮島沼で9月28～29日に行い、倶知安町からは1回目・2回目ともに7名の小中学生の参加がありました（定員8名）。7月の会では、倶知安町屈指の高層湿原である「鏡沼湿原」を散策し、9月の会では、シ

ベリアから宮島沼へと冬越しのためやってくるマガンのねぐら入りや、ねぐら立ちを観察しました。

今回参加してくれた倶知安の子供たちの多くは、普段から風土館に来てくれている子たちです。これまで博物館として繋がりを培ってきた子供たちが集い、輪を広げていく。博物館冥利に尽きる事業となりました。子どもたちに学びと経験の機会を提供し、地域をつぶさに見る人材を増やす一助となる施設を目指したいと改めて感じます。



交流の様子

(2024年7月14-15日 倶知安町鏡沼湿原)

[倶知安風土館 学芸員 小田桐 亮]

道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS

文化財マップをブラッシュアップ ～「もくもく会」の実施

道南ブロックでは公立はこだて未来大学と連携し、地域の文化財を広く紹介するための文化財マップを作成しています。このマップは、オープンデータの原則に基づき、地図上へのマッピングに加え、写真や解説テキストを組み合わせる文化財を紹介するデータベースです。2024年12月24日現在、755件の文化財情報が登録されており、データはテキスト形式でダウンロードして自由に改変・利用することが可能です。

データベースのさらなる充実を目指し、10月9日に「もくもく会」を開催しました。もくもく会は、IT系のコミュニティで広く行われる作業イベントで、参加者がそれぞれの目標に向かって「もくもく」



と作業を進めつつ、他の参加者とゆるやかに交流する場です。この会では、データベース入力未経験の参加者もあり、互いに教え合いながら入力作業を進めることができました。これにより、データベース構築に対する理解を深めるとともに、道南ブロックとしての連帯感も高まりました。

さらに、北海道教育大学函館校の伊藤美紀准教授から、多言語対応や多様な利用者を意識したサイト作りの重要性について説明を受けました。特に、日本語表現の工夫について、文化庁が発行する『在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン』に基づく記述の必要性が強調されました。参加者は、文章

をわかりやすく簡潔にするためのツール「やさちチェック」を体験し、文化財解説文を改善する手法を学びました。

文化財の解説文は専門的な内容になりがちですが、今回の取り組みを通じて、誰もが理解しやすい表現にする重要性を再認識しました。地域文化の発信力を高めるためにも、わかりやすく誤解のない文章を作成することが求められます。今後もこのプロジェクトを通じて、地域文化の魅力を国内外に発信していく予定です。

[厚沢部町教育委員会 石井 淳平]

日胆地区博物館等連絡協議会 NEWS

令和6年度日胆地区博物館等連絡協議会研修会 開催報告

令和6年10月29、30日の両日、新ひだか町で研修会を開催しました。

29日は、令和4年度博物館法改正により、他の博物館との連携、地域の多様な主体との連携・協力による文化観光など地域の活力の向上への寄与が努力義務化されたことを話の種として、6名の方々に講話、話題提供いただき、意見交換をしました。

講話では、新ひだか町総務部の高野圭司、江田零慈の両氏に、地域活性化の起爆剤になるものと期待されている「日高山脈襟裳十勝国立公園」の指定等に係る関係自治体の取り組みについて、それぞれ、話をさせていただきました。

話題提供では、日高町立門別図書館郷土資料館の越崎聖也氏より「“日高町らしさ”を追い求める図書館郷土資料館を目指して」と題して、北海道稲田会の中村由香氏より「困っていませんか？先祖のルーツ探しへの対応」と題して、様似郷土館の榎本尊氏より「様似郷土館における連携事業の紹介」と題して、研修テーマに係る取り組み事例を、それぞれ紹介していただきました。

意見交換では、話題提供について質疑応答が行われたほか、話題提供いただいた各氏の取り組みに対

する賛同の声や助言などもあり、活発な意見交換となりました。

30日は、新ひだか町が、NPO法人新ひだかアイヌ協会を実施主体として、アイヌ政策推進交付金の活用により実施している各種教育普及事業のうち、町内の全小学4年生を対象とした①サケ漁の見学、②サケの解体見学、③チセ等の施設見学を視察しました。

現在、多くの自治体が、アイヌ政策推進交付金事業に取り組んでおり、それぞれに特徴があります。このたびの視察は、当該交付金の活用事例を実地に知る良い機会となりました。



マレク（鉤）によるサケ漁の見学

[新ひだか町博物館 館長 斉藤 大朋]

道北地区博物館等連絡協議会 NEWS

令和6年度道北地区巡回展および研修会報告

今年度、道北地区博物館等連絡協議会では巡回展として「道北の鉄道」を開催しました。利用者の減少等によって、廃線や廃駅が増えつつある中、かつて道北の公共交通として支えていた鉄道の歴史を紹介することで、鉄道に関する興味・関

心や理解を深め、これからの鉄道を考えるきっかけとなればと実施しました。

今回の巡回展では、枝幸・浜頓別・中川・美深・名寄・士別・苫前の7館が参加し、各館で作成した廃線や廃駅に関するパネルを集めて巡回しつつ、巡回地ごとの独自性を出すために、個別に収蔵している資料の展示も行い、道北の鉄道を紹介しました。

複数の館で連携することで、道北の鉄道の歴史を紹介できたことはもちろん、私たちの生活に根付いていた「鉄道」というテーマを介して、道北地域の現状を知る機会にもなったのではないかと思います。

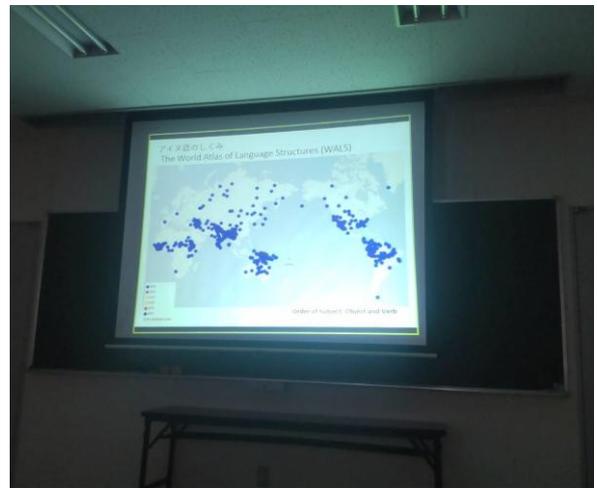
11月には道北地区の研修会として、国立アイヌ民族博物館研究員の深澤美香氏を講師にアイヌ語の研修を行い、アイヌ語と日本語の関係やアイヌ語の現在、文法などを解説いただきました。



巡回展の様子（士別市立博物館）

入門編の研修ではありましたが、解説を聞きながら、これまでの漠然としていた理解を深める良い機会になり、大変勉強になりました。北海道という地域の特性上、アイヌ民族の歴史や文化は押さえておかなければならないテーマでもあり、最近では学校からの授業の依頼や見学、個人的に関心を持つ人なども増えつつあります。こうした状況の中、博物館事業などの有無に関係なく、学芸員として正しく知識を身に付け、利用者の多様なニーズに応えられるようにしていく必要があると改めて考えさせられました。

今後も巡回展や研修などをとおして、道北地域の「良さ」を発信すると共に、多くの方の興味・関心を引き立てる展示や講座を行うことができればと思っております。



研修会の様子

[士別市立博物館 学芸員 中村 圭佑]

オホーツク管内博物館連絡協議会 NEWS

知床博物館 第43回特別展 「大標本展」開催までの裏話

令和6年9月28日～令和7年2月28日の期間で開催した特別展「大標本展」には裏話があります。

実施にあたり「知床国立公園指定60周年・世界自然遺産登録20周年記念事業」と位置付け、「標本を通じて、生物多様性を学べる展示」、「豊かな知床の自然を感じられる展示」などの目標を据えて準備を進めた…ことにしていましたが、実は先行していた目標は違うものでした。

知床博物館は開館から約50年の歴史があり、その間におよそ3万点にも及ぶ生物資料が収集・保

管・展示されてきました。登録と資料情報管理はどれも紙台帳のみで、目的の資料台帳を一枚一枚めくって探す作業は実に骨が折れる作業になります。また、資料の収蔵場所も展示室・収蔵庫・冷凍庫・別施設…と、いくつかの場所に散らばっているため、資料の検索は困難を極めます。「よし！資料調査と資料台帳のデジタルデータベース化を進めよう！」そう思い立ったのが2022年の秋でした。

資料の所在を探し、台帳を一枚一枚めくり、実物と照合していく作業を進めていくと、知床博物館の興味深い特色に気が付きました。それは、「資料が採集されてから博物館に収蔵されるまで」の情報が、実に事細かに記録されている事です。日付や場所はもちろんのこと、「交通事故死によるもの。町民が発見した時には生きていたが、博物館に届けた時には死亡していた」、「町民が一時保護し給餌するも、

9日目に死亡し博物館へ届け出」など、こうした情報が手書きでビッシリと台帳に書き記されています。また、「北海道最後の記録となったカワウソの毛皮」や「50年前に斜里町最後の死亡事故を起こしたヒグマの剥製」、「電柱に感電防止措置が施されるきっかけとなったシマフクロウの剥製」など、町内のみならず北海道内の自然史にも大きなインパクトを残したであろう標本も多数収蔵されていることがわかりました。こうした情報を1枚1枚読み進める作業は、まるで知床の自然にまつわる短編小説を読み進めるような静かな興奮を覚えました。

こうした標本たちの歩んできた魅力的なストーリーとともに、博物館が資料を収集する意義を伝えられる特別展を、データベース作業の成果を活用することで開催することができるはず。こうした想いから「大標本展」の構想は始まりました。

開催期間中（9月28日～2月末まで）、3,000人を超える来場者があり、展示した約1,000点それぞれのたどった物語や、地元の絵本作家である「あか

しのぶこ」さんの味わいある漫画で描かれた標本たちの数奇なストーリーに思いを馳せている様子でした。



〔斜里町立知床博物館 学芸員 臼井 平〕

道東3管内博物館施設等連絡協議会 NEWS

道東3管内博物館施設等連絡協議会 交流推進会議を開催しました

道東3管内博物館施設等連絡協議会では、令和6年10月7・8日に帯広市と音更町で交流推進会議およびエクスカッションを開催しました。交流推進会議は「民俗学からのアプローチによる地域社会の記録」をテーマに開催され、近年の過疎化や社会構造の変化、あるいは新型コロナウイルスの流行による行動制限により、地域が長年有してきた慣習や商形態、信仰上の組織などが急速に消失・変貌している状況であり、こうした地域の文化や社会風俗の変化を記録し後世に伝えることは、地域博物館の一つの役割と考えられることから、その手法・対象や実践事例を学ぶ機会としました。講師として、関西学院大学社会学部社会学科教授の島村恭則氏と北海道博物館学芸主査の尾曲香織氏から講演を頂いた。また、釧路市立博物館学芸主幹の石川孝織氏より活動報告を頂きました。

島村氏は「民俗調査の方法と思想—眼前の民俗をいかにとらえるか」という演題で、身近にあるものがヴァナキュラー研究の対象になるとし、喫茶店のモーニング文化やスナック街の聞き取りなどからもその土地固有の歴史文化が見えてくると実践例が紹介されました。尾曲氏からは「モノから人を知

る—博物館資料と聞き書き」という演題で、魚売りの行商や北海道博物館での資料収集時の聞き取りの状況について、釧路市立博物館の石川氏からは、「線路と駅から見えてくる地域史・生活史」という演題で鉄道や石炭など産業に関する聞き取りや記録の出版について、それぞれ実践例が発表されました。2日目は、帯広百年記念館で開催されていた特別企画展「令和6年度アイヌ工芸品展 アットゥと太布—糸がつなぐ文化」を帯広百年記念館の大和田努学芸員の解説で見学しました。その後、音更町に移動し、2023年にリニューアルされた音更ふるさと資料館を見学したところ、小学生や音更町在住デザイナーとの協働により展示空間が制作されていました。音更ふるさと資料館の横田寛樹氏からは館全体をご案内頂き、上野山彰氏からは、町民からの聞き取りの様子を教えて頂き、帯広市のベッドタ



講演会の様子

ウンとして発展し変化していく音更町の歴史の保存について学ぶことができました。

[根室市歴史と自然の資料館 学芸員 猪熊 樹人]

日本動物園水族館協会北海道ブロック NEWS

おたる水族館 開館 50 周年

おたる水族館は2024年7月14日を以て、開館から50年を経過しました。この記念すべき50周年を盛り上げるべく、1年前から様々な企画を立ち上げ準備しました。おたる水族館が50周年を迎えたことを広く皆様にお知らせするための広告、50年間の歴史を分かりやすく伝えるための展示、そして半世紀を記念して来館された皆様と一緒に楽しむための記念イベントの大きく分けて三つの柱で考え、実施に向かいました。半世紀という長い期間、おたる水族館がここに在り続けられたのは、皆様にご愛顧いただいたおかげということで、感謝の気持ちで全ての企画を進めていきました。広告の一つ目は新聞広告。記念日の7月14日の北海道新聞朝刊の全面に実物大のトドの顔写真とともに館長から皆様への感謝の気持ちを、2,000字ほどの文章にして掲載して、読者には大きなインパクトを与えたものと思います。次に記念のブランディングムービー制作が挙げられます。映像制作のプロに依頼し、おたる水族館の生きものたちや飼育員の日常を切り取った4分ほどの短いイメージ映像や北海道で初めてのイルカの繁殖に密着したドキュメンタリー映像など制作途中のものも含め合計3本の映像をウエ

ブで放映し、お楽しみいただいています。その他にも新聞やテレビ等でも50周年を取り上げていただき、広く皆様に届いたかと思えます。通常の展示に加えて50周年の特別展示として、館内では通常よりも深く掘り下げて展示解説を行うパネルを設置しました。中には通常の文字や写真、図などの解説だけでなく、生息環境をイメージさせる音などを使い、より没入感を高めた展示展開を図りました。三つ目として、半世紀を迎え体験型のイベントなどを充実させることで、ただ「見るだけ」から「聞いて」「体感する」水族館を目指しました。その一つとして「水族館塾」を事前申し込みで開催し、館長や飼育の責任者によるディープな生きものの講話を行いました。子供向けと大人向けを別に行い、興味の度合いに応じて濃密な時間を過ごしました。その他にも当館オリジナルの紙芝居を作成、プロの紙芝居士の手ほどきを受けた飼育員たちがお子様向けに紙芝居の読み聞かせイベントを行いました。今回、50周年を機に様々な企画を実行しましたが、次は100周年を目指して進むために今回の感謝の気持ちを持ち続け、更に皆様の笑顔を沢山みられるよう、生きものたちの素晴らしさを伝え続けるために日々努力し続けたいと思います。

[おたる水族館 総務部次長 古賀 崇]

学芸職員部会 NEWS

第48回研修会開催報告

学芸職員部会は、令和6年9月26日・27日に網走市で研修会・総会を開催しました。研修会では「博物館のための三次元計測入門」をテーマに、講師として路上博物館の森健人さんをお招きし、講義と実習を行いました。

今回の研修会では、高価な機材を使わずに、スマートフォンやデジタルカメラ、パソコンなどの日常的に使用する機材を活用して、フォトグラメトリと呼ばれる手法で立体的な3DCGモデルを作成する方法について学びました。研修会に先立ち、事前にオンライン研修会でスマホフォトグラメトリ実習も行われ、参加者は基礎的な知識を身につけた上での

研修会となりました。講義の後には、参加者が持参したデジタルカメラで縄文土器や民具資料、剥製資料など様々な資料を撮影し、持参したパソコンで



エクスカージョンの様子

3DCG モデルを作成しました。

2日目のエクスカージョンでは、モヨロ貝塚館や網走市郷土博物館、北方民族博物館を巡りました。網走市郷土博物館では、「網走にダンゴムシ？」という特別企画展が開催されており、網走市の梅田学芸員に展示解説していただくことができました。展示室は、ダンゴムシの「ダンゴ」にかけて、串団子を提供する茶屋をイメージした和風な展示空間となっており、来館者に興味を持って楽しんでもらえるように工夫されていました。今回の研修会は若手

学芸員の参加が目立ったことから、工夫を凝らした特別企画展は良い刺激になり、三次元計測実習の技術だけでなく、展示手法についても各館に持ち帰ることができたのではないかと思います。

学芸職員部会では、今後も学芸員の能力向上のために必要な研修会を企画していく予定です。参加者の意見や要望を反映しながら、より役立つ内容の研修会を提供していきたいと考えています。

[学芸職員部会事務局・美幌博物館 八重柏 誠]

北海道青少年科学館連絡協議会 NEWS

第59回北海道青少年科学館連絡協議会研修会 開催報告

令和6(2024)年10月2日(水)～3日(木)の2日間、道博協加盟のスタッフを対象とした令和6(2024)年度第59回北海道青少年科学館連絡協議会研修会を開催しました。

今年度の職員研修は開催館である北海道立オホーツク流氷科学センターがあります紋別市にて開催いたしました。今回は今年4月に当施設所長に就任致しました大塚夏彦と、紋別市教育文化振興会会長の橘有三氏による2部制とし、各専門分野に関して講義頂きました。大塚所長は「地球温暖化のホットスポット」と題して北極の自然環境と、近年の急速な環境変化、またそれによる北極圏の生物や人間、経済や国際問題にも及ぶ影響など、北極が地球温暖化を示す重要なセンサーであることについて講義頂き、その知識を普及する科学館の役割についてお話頂きました。

次に橘有三氏より、紋別市の歴史について講義頂きました。ひとつは紋別市(現在地名)が幕府の勅令により日本で最初にコーヒーを飲用したことが公文書に記されていることについてお話頂き、皆さんは驚きを隠せない様子でした。橘氏はこの時代のレシピに沿った「紋別コーヒー」を商品化しており、休憩時間に皆さんに試飲頂きました。

もうひとつは、紋別市にある日本三大金山として名高い鴻之舞金山の歴史について本物の古文書を

用いて講義いただきました。

意見交換会ではお互いの施設が抱えている問題について積極的な情報交換がなされ、各館の職員の親交を深めました。

2日目の視察研修では紋別市立博物館を会場とし、博物館学芸員の小林係長より、紋別の漁業や鉦山、人々の暮らしの歴史について、また前日の講義で説明のあった「鴻之舞金山」の原石などを見学し、各所解説頂きました。参加者は科学館、博物館の垣根を超え、展示物やバックヤードに興味深く見学された様子でした。この日もご参加頂いた橘会長が、蛍石の実験を披露され、最後に参加者に鉦石をプレゼントする一幕もありました。

今回の研修会は、北極と温暖化の関係や、紋別の歴史、文化に触れるなど、科学館と博物館の連携による科学と文化を盛込んだ研修会となりました。



研修会の様子

[北海道立オホーツク流氷科学センター 管理課
今泉 賢斗]

北海道美術館学芸員研究協議会 NEWS

「開館35周年記念ピカソパースデー・フリーコンサート」

グランドピアノ「ベーゼンドルファー225」、これが当館にあることを皆さんはご存知でしょうか。オーストリアで制作されている歴史のあるピアノで、その特徴のある音はウィンナートーンと呼ばれます。この立派なピアノと、200名収容できる立派な客席が当館コンサートホールの売りではあるのですが、利用者が少ないのが実情です。

この状況を少しでも変え、多くの方にベーゼンドルファーを利用してもらおうと、昨年10月に開催されたのが「ピカソパースデー・フリーコンサート」でした。

このコンサートは、出演料・観覧料が無料の公募型のコンサートで、出演者に求めた条件は、技術のレベルは問わず、「後志管内在住であること」と、「ベーゼンドルファーを利用した演奏をすること」の2点だけです。そのため、岩内町内のピアノ教室に通う子供たちや先生、独学でピアノを勉強している人、コンサートを控えたセミプロの人など老若男女、様々な志望理由をお持ちの27名が出演者として集まりました。曲目についても、ソロ演奏の他に、子供たちの合唱や兄弟での連弾、フルートや

ヴァイオリンとのデュオなど様々な演奏がされました。また、当館でコンサートを開催するにあたって、毎回頭を悩ませている200の客席も、出演者のご親戚やご友人に観覧に来ていただけたことで、7割ほどを埋めることができました。観覧無料ということで、観覧者数の予想ができないため不安でしたが、出演者の方々に寂しい思いをさせなくて済んだことに安堵しました。

コンサート終了後、出演者と観覧者双方から好評をいただき、「ぜひ来年も」というお声も多くいただいたことから、今年もフリーコンサートの開催を予定しております。今後もこのコンサートが、地域の文化振興の一助となれば幸いです。



コンサートの様子

[荒井記念美術館 学芸員 加藤 厚]

イベント情報

会員館園の主な企画展と普及行事等 2025年4月～9月

詳細は各館園にお問い合わせください

石狩

北広島市エコミュージアムセンター (011-373-0188)

期間	タイトル
7/26～9/28	私の博物館～昆虫は人生のライフスタイル～ (仮)

いしかり砂丘の風資料館 (0133-62-3711)

期間	タイトル
4/20	野外講座 石狩ビーチコーマーズ／春の海辺の漂着物
7～10月予定	新・市指定文化財特別展 (仮)
7月下旬	体験講座 海辺の標本箱をつくる

札幌オリンピックミュージアム (011-631-2000)

期間	タイトル
5/5	バイアスロンイベント
5/6	バックヤードツアー
6/22	オリンピックデーイベント
8月(未定)	夏休みワークショップ

北海道博物館 (011-898-0456)

期間	タイトル
2/8～4/6	第24回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える」
4/12	自然観察会「エゾアカガエルのラブコールを聴こう！」
4/19	特別イベント「博物館のウラ側を見てみよう～楽器編～」
4/26～6/15	第4回蔵出し展「アイヌの衣服－北海道博物館の所蔵資料から－」
5/24	ちゃれんがワークショップ「蔵出し展「アイヌの衣服」こぼれ話」
5/25	ちゃれんがワークショップ「のこぎりでネームプレートをつくろう」
6/7	子どもワークショップ「ヒツジの毛にふれてみよう①ヒツジの毛を洗ってみよう！」
6/15	特別イベント「石の中からホンモノの化石を掘りだしてみよう！」
6/28	自然観察会「ミクロな生き物を観察しよう！」
7/19～9/15	第11回特別展「新選組永倉新八と会津藩士栗田鉄馬－二人のサムライが歩んだ幕末・近代－」
8/2	子どもワークショップ「ガリ版でいんさつやさん！」
8/3	講演会「新選組永倉新八とその時代」
8/9	子どもワークショップ「土偶をつくろう」
8/16	子どもワークショップ「トノサマバッタをさがそう♪」
8/31	講演会「剣客・鉄馬、雑筆をふるう」
9/27	アイヌ語講座「アイヌ語講座～ききおこしのキ～」

札幌市円山動物園 (011-621-1426)

期間	タイトル
3/20～5/11	サケ稚魚の放流体験(千歳水族館)
6/21～6/22	アースデイ in 円山動物園

小原道城書道美術館 (011-552-2100)

期間	タイトル
4/8～7/31	第36回特別記念展 謙慎書道会の人々展
4～7月(各一土曜日)	ギャラリートーク：講師未定
8/7～11/30	第36回特別記念展 幕末維新名家展(仮称)
8～11月(各一土曜日)	ギャラリートーク：講師未定

北海道立文学館 (011-511-7655)

期間	タイトル
4/1～2026/3/31	常設展「北海道の文学」

4/12～6/8	常設展「文学館アーカイブ 伊藤整「日本文壇史」を紐解けば」
4/19～6/13	ファミリー文学館「空を見上げるー太陽・月・星…文学」
5/5	わくわく～こどもランド「こどもの日手作りコーナーこいのぼりをつくろう！」
5/5	わくわく～こどもランド「こどもの日スペシャル 人形劇」
5/8.6/12.7/10.8/21.9/11	月例朗読会「北の響～名作を声にのせて」
6月、9月、10月	ぶらり文学散歩
6/18～8/24	常設展「文学館アーカイブ 北の密室考」
6/22	映像作品鑑賞「天下を取る」
6/28～8/24	特別展「安部公房展 21世紀文学の基軸」
7/1～9/10(募集期間)	第20回北海道小・中・高生短歌コンテスト
7月下旬～8月上旬	夏休み文学道場「中・高生のための創作講座」
7/6. 10/5	わくわく～こどもランド「絵本の読み聞かせ」ほか
7/27	わくわく～こどもランド「手作り教室・サマーブックをつくろう！」
8/3	わくわく～こどもランド「夏休みスペシャル」
8/6～8/7	わくわく～こどもランド「手作り教室・紙芝居をつくろう！」
9/2～9/18	常設展「文学館アーカイブ 函館の作家たち」
9/6～11/9	特別展「長谷川四郎とその兄弟」
9/27～11/9	常設展「文学館アーカイブ 函館の作家たち」
9/20. 9/21. 9/23	開館30年記念イベント「文学館まつり」

空知

岩見沢郷土科学館 (0126-23-7170)

期間	タイトル
～6/1	企画展「第2回 新資料から見える岩見沢 新収蔵品展」

後志

情報なし

渡島

函館市縄文文化交流センター (0138-25-2030)

期間	タイトル
5/3～5/5 (予定)	期間限定イベント「縄文しおりづくり」
5/17 (予定)	縄文体験講座「食べられる土偶づくり」
6～7月 (予定)	縄文体験講座「縄文時代の植生を学ぶ」
7/26～9/25 (予定)	企画展「国宝『土偶』(カックウ) 発見50年のあゆみ」(仮称)
8/2 (予定)	縄文体験講座「縄文時代の住居を学ぶ 竪穴住居ジオラマづくり」
8/24 (予定)	講演会「国宝『土偶』発見から50年の足跡(仮)」
8/30. 9/6 (予定)	縄文体験講座「縄文時代の漁労を学ぶ 鹿角釣り針づくり・海釣り体験」

9/13 (予定)	縄文体験講座「土偶の絵を描いてみよう！」
-----------	----------------------

胆振

室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)

期間	タイトル
4/20	とんてん館寺子屋教室「しいたけ植菌」体験学習会
5/5	室蘭市民俗資料館フェスティバル

国立アイヌ民族博物館 (0144-82-3914)

期間	タイトル
定期的 (主に週末)	基本展示室ギャラリートーク
3/15～5/18	第8回テーマ展示「ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」
4/12	第8回テーマ展示「ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」 ギャラリートーク 第二回
4/19	第8回テーマ展示「ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」 ギャラリートーク 第三回
4/26	第8回テーマ展示「ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」 ギャラリートーク 第四回
5/3	第8回テーマ展示「ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」 関連クロストーク サンタン交易の現場を語る
5/4	第8回テーマ展示「ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」 ギャラリートーク 第五回
5/10	第8回テーマ展示「ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」 ギャラリートーク 第六回
5/17	第8回テーマ展示「ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」 ギャラリートーク 第七回
7/5	第10回特別展示「ドイツ展 (仮)」のギャラリートークなどの関連イベントを予定
7/5～8/31、 9/13～11/16	第10回特別展示「ドイツ展 (仮)」

苫小牧市美術博物館 (0144-35-2550)

期間	タイトル
4/26～6/29	企画展「勇払幻視 (仮称) 一砂田友治・北川豊・高橋伸・高橋正敏」
4/26～6/29	特集展示「苫小牧ゆかりの書 市内所蔵展」(仮称)
4/26～未定	中庭展示 Vol.21 風間天心
7/12～8/31	特別展「描く人、安彦良和」
9/20～11/30	企画展「苫小牧の文化財」(仮称)

日高

アポイ岳ジオパークビジターセンター (0146-36-3601)

期間	タイトル
4～10月	自然観察会「ブラアポイ」※月に2～3回開催

沙流川歴史館 (01457-2-4085)

期間	タイトル
4/22～6/8	令和7年度企画展「過去から今へー平取の発掘とまちづくり」

上川

士別市立博物館 (0165-22-3320)

期間	タイトル
4～5月	季節の行事展（端午の節句）
4月下旬～5月上旬	大型連休企画
5～6月	企画展「植物展」
5月	講座「春の自然観察会」
7～9月	特別企画展「戦後80年展」
7月	講座「夏の自然観察会」
8月	講座「考古学体験講座」
9月	講座「秋の自然観察会」
9月	講座「士別歴史探訪」
9月	講座「収蔵資料調査」
9～10月	臨時企画展「(仮) 合併20年を振り返る」

中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館 (0166-46-6277)

期間	タイトル
3/1～6/29	新収蔵品展－旭川ゆかりの彫刻家たち（本館）
3/7～6/1	「おかえり」彫刻巡回展示の作品たち展（ステーションギャラリー）

宗谷

情報なし

オホーツク

北海道立オホーツク流氷科学センター (0158-23-5400)

期間	タイトル
4～9月	毎月2回「今月のプラネタリウム」
5月	ゴールデンウィークイベント
7月～8月	企画展「アトリエたねまき展（仮）」
7/20	紋別わくわく科学教室
8月	夏休みイベント ギザ祭り

博物館網走監獄 (0152-45-2411)

期間	タイトル
4/29～8/30	網走監獄重要文化財建造物「光と陰」写真展
5/3～5/5	ゴールデンウィークイベント (伝統遊具作り・文化財スタンプラリー・餅つき)
5/5	端午の節句 兜と鯉のぼり作り
5/6	中央道路の桜並木を歩いて歴史を学ぼう
5/18	農園体験ワークショップ1回 畑作りと種蒔き
6/29	農園体験ワークショップ2回目 土寄せと除草
7/6	開館記念イベント①学芸員と一緒に回る重要文化財②豆わらじ作り体験
8/3	農園体験ワークショップ3回目 除草と大根の種蒔き
8/2	夏休み物づくり体験講座
8/7	七夕イベント
9/14～9/15	二見湖畔神社収穫祭

美幌博物館 (0152-72-2160)

期間	タイトル
～2025/10/26	特別展「蛍が舞う風景」
4/11～4/12	プチ工房「ザリガニばさみ」
5/5	こどもの日記念行事
5/17	見学会「ぶら博物館」
5/23～5/24	プチ工房「宝石発掘」
6/6～6/7	プチ工房「風鈴」
6/7	体験会「ホタルカゴを作ろう」
7/12	講演会「恐竜が見た蛍の光はどんな色」
7/12	観察会「野外でヘイケボタルを見よう」
7/25～7/26	プチ工房「卵のバスボム」
8/2	講演会「温ための水質調査」
8/8～8/9	プチ工房「モザイクタイルのコースター」
9/2～9/30	美幌博物館でお宝をさがせ！
9/19～9/20	プチ工房「光の箱」

ところ遺跡の森 (0152-54-3393)

期間	タイトル
3/1～6/1	特集展示「いよいよオープン！トコロチャシ跡遺跡群」
8/30 (予定)	遺跡見学会

十勝

帯広百年記念館 (0155-24-5352)

期間	タイトル
4/12～5/6	ロビー展「五月人形展」

4/19	博物館講座「史料から見る依田勉三・晩成社」
4/19～5/6	企画展
7/12～8月上旬	収蔵美術作品展
9/6	アイヌ語で自然かんさつ

ひがし大雪自然館 (01564-4-2323)

期間	タイトル
4月～10月	夏鳥展
5月	バードウォッチング (仮題)
5～6月	自然館講座 1
5～6月	自然観察会 1
6～7月	自然館講座 2
6～7月	自然観察会 2
7～8月	むしむし WEEK2025
8～9月	自然観察会 3
9月	自然館講座 3

神田日勝記念美術館 (0156-66-1555)

期間	タイトル
4/16～6/15	コレクション展 I 「トリビュート神田日勝」
2024/5/10	アート・キッズ・クラブ 2025 (第1回) 【小学生対象】
6/17頃	第31回蕪壱祭
6/18～9/28	企画展「神田日勝×クスミエリカ」展 (仮)
6/下旬～7/月上旬	アート・キッズ・クラブ 2025 (第2回) 【小学生対象】
8/月上旬	アート・キッズ・クラブ 2025 (第3回) 【小学生対象】
2024/8/24	第33回馬耕忌

釧路

北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)

期間	タイトル
4/19～6/29	木村伊兵衛 写真に生きる
4/19	プレミアム・トーク「木村伊兵衛とその時代 (仮)」
4/26	アートシネマ館
5/10	木村伊兵衛展ギャラリー・ツアー
5/24	木村伊兵衛展ギャラリー・ツアー
5/31	アートシネマ館
6/14	美術講座「もっと知りたい木村伊兵衛」
6/28	アートシネマ館
6/28	美術講座「もっと知りたい木村伊兵衛」
7/19～10/13	さかなクンのギョ 苦楽展
7/19～10/13	ももちゃんを見つけ！北のおさかな界限

7/26	アートシネマ館
7/26～8/24	夏のキッズ・アトリエ
8/30	アートシネマ館
9/13	パフォーミングシアター2025
9/27	アートシネマ館

釧路市こども遊学館 (0154-32-0122)

期間	タイトル
3/25～4/7	春休みイベント 2025 「音らんど」
4月下旬～5月上旬	GW イベント 2025
7月下旬～8月下旬	夏休みイベント 2025
9月上旬～9月下旬	宇宙月間

釧路市立博物館 (0154-41-5809)

期間	タイトル
3/22～6/29	道東考古—縄文の世界—
4/19・20	展示解説「ようこそ釧路へ」
4/20・5/18・6/15・ 7/20・8/17・9/21	春採湖畔探鳥会
5/3～5/5	博物館で遊ぼう
5月上旬(日程未 定)	竪穴住居で屋根ふき体験
5/17・6/21・7/19・ 8/16・9/20	春採湖畔草花ウォッチング
5/25	初夏の探鳥会
6月上旬・8月下旬	歴史探訪会「まちなみ散歩」
6/7・8/9・9/13	しらべてみよう春採湖の昆虫
7/5～10/5	釧路のツバメたち
7/12	春採湖汽水のいきもの観察会
9月下旬(予定)	博物館まつり

根室

情報なし

事務局からのお知らせ

■会費納入のお願い

当協会の活動は会員の皆様の負担金（会費）で運営されています。年会費は、団体会員 15,000 円、賛助会員 20,000 円、個人会員 3,000 円です。今年度分会費を未納の方は、以下の口座までお願いいたします（振込手数料はご負担くださいますようお願い致します）。

【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店（普）0287000 北海道博物館協会会長 石森秀三】
【郵便振込口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】

■2025 年度の北海道博物館大会について

第 63 回北海道博物館大会は、2025 年 7 月 4 日（金）・5 日（土）に北海道開拓の村・北海道博物館（札幌市）で開催予定です。

会員の皆様にお目にかかれますことを楽しみにしています。

■今後の道博協ニュースの発行について

年末に皆様にお願ひしました「北海道博物館協会 文書の送付方法及び電子化に関するアンケート」では多くの会員の皆様からご回答をいただきました。ご協力いただき、誠にありがとうございました。今回お届けする 136 号は全会員に紙媒体をお届けいたしますが、2025 年 10 月発行予定の次号(137 号)以降は、物価高騰対策および資源有効活用のため、「紙媒体は不要」とご回答いただいた会員の皆様には発送を控えさせていただきたく思います（必要と回答された方、アンケートへ未回答の方にはこれまでどおり紙媒体のニュースもお届けいたします）。なお、pdf 版の道博協ニュースは、今後も引き続き当協会 web サイトへ掲載を続けます。今後も電子版の道博協ニュースを是非ご活用下さい。

（事務局一同）

■北海道博物館協会ホームページ <https://www.hkma.jp/>

■学芸職員部会ホームページ「集まれ！北海道の学芸員」 <https://www.hk-curators.jp/>

道博協ニュース 第136号

発行日 2025年3月31日
発行者 北海道博物館協会

北海道博物館協会事務局

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2 北海道博物館内
電話：011-898-0456
メールアドレス：dohakukyo.jimukyoku@gmail.com